

## 企画展示「明治期の津田永忠顕彰活動と歴史家・木畑道夫」を 開催します

後樂園や閑谷学校を建設し、新田開発を進めた岡山藩の重臣・津田永忠<sup>つだながただ</sup>は、明治期に歴史家・木畑道夫<sup>きばたみちお</sup>らの顕彰活動でその名が不朽になりました。岡山市立中央図書館所蔵の木畑家資料から、明治29年に後楽園内に建てられた津田永忠遺績之碑の関係文書を展示します(初公開)。

### 1 日時

令和5年6月1日(木)～7月17日(月・祝) 7月17日(祝日)を除く、毎週月曜日は休館  
開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

### 2 場所

岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前 展示コーナー(北区二日市町) 入場無料

### 3 内容

・本展では、当館所蔵の木畑家資料(「木畑文庫」)から、木畑道夫が進めた津田永忠遺績之碑の建設に関わる資料を展示します(約 20 点、初公開)。推敲が重ねられた撰文の原稿や、呼びかけに応じて多くの人々が協力したことがわかる寄附金の帳簿など、関係者の熱意が甦る内容です。

・木畑道夫は後樂園と岡山城についても近代で最初の学問的な著述を残した歴史家であり、地域の歴史遺産を守ろうとして書かれた、それらの著作と貴重な草稿もあわせて展示します。

・木畑道夫の孫の木畑貞清<sup>さだきよ</sup>氏(国文学者、元就実短期大学長)から昭和 59 年に当館へ寄贈された木畑家資料(「木畑文庫」843 点)の目録を PDF ファイルで当館ホームページへ掲載します。

### 4 その他

関連講座「津田永忠遺績之碑と木畑道夫」

日時 令和5年7月17日(月・祝) 14時～16時

会場 岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール 先着60名(申込不要) 聴講無料

講師 飯島章仁(当館学芸副専門監)

#### 【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 永田・飯島 直通086-223-3373

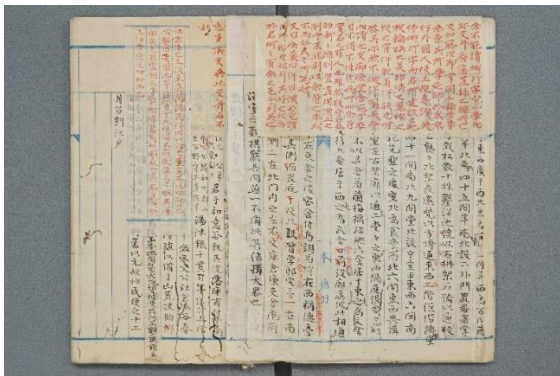
おもな展示品



木畑道夫の肖像写真



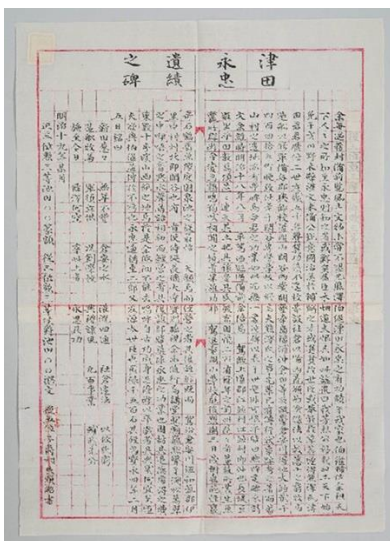
(参考)後楽園内の「津田永忠遺績之碑」



添削が加えられた撰文の原稿



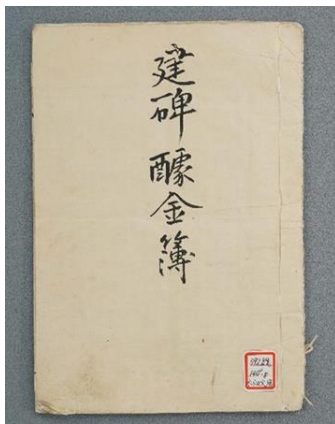
多数の貼紙で添削された撰文の原稿



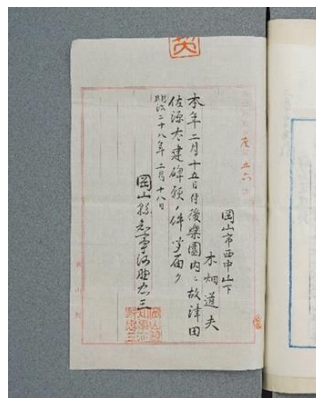
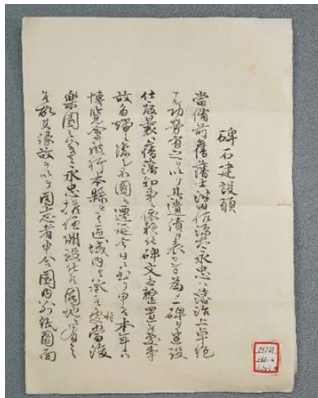
文字の割り付けの原稿



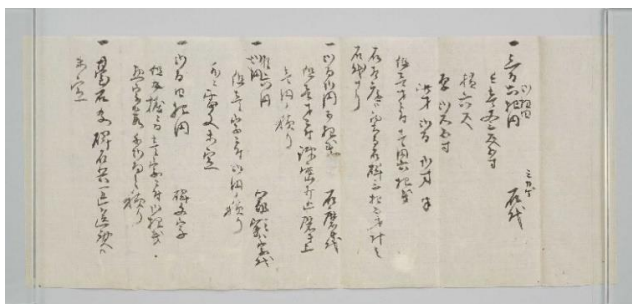
木畑道夫の名前で出された募金の趣意書



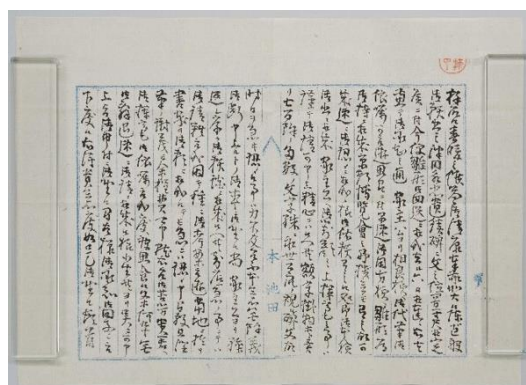
建碑醱金簿



木畑が県知事へ提出した建設願書と許可書



経費の見積書と碑石の図



木畑は池田章政の甥の相良頼紹(子爵)へ揮毫を依頼しましたが、公衆に永遠に事績を伝える碑文へ筆をふるうには力不足と、本人が固辞しており、むしろ木畑自身が書いてはどうかと章政が考えていることを、多額の寄附の約束とともに伝える返信が池田家の執事から届きました。

## 【参考】

### <津田永忠への評価>

池田光政いけだみつまさと池田綱政いけだつなまさに仕えた岡山藩の重臣・津田永忠しずたにがつこうは、閑谷学校や後樂園を造営し、大規模な新田開発を進めて、地域の発展に貢献しました。

永忠は、現在では、儒学者の熊沢蕃山くまざわばんざんとともに岡山藩政を支えた重要人物と認められていますが、蕃山の声望がずっと衰えなかったのに対し、永忠の数々の土木事業にまつわる記憶は、彼の死後、次第に薄れ、明治時代にはあまり名前の知られない存在になっていました。

### <木畑道夫が中心になって進めた津田永忠の顕彰>

歴史家の木畑道夫(文政7年生～明治36年没)は、岡山藩の藩医の家に生まれ、廃藩後は岡山県庁に出仕した後、県の歴史を調査し、さらに明治14年から旧藩主・池田家のもとで旧岡山藩の膨大な文書の整理にあたりました。彼はそのことを通じて永忠の業績を知り、関係資料をつぶさに調べて、明治15年に『津田永忠君年譜』を著わしました。

木畑にしきいちと西毅一(岡山県政の実力者で閑谷学校の再興に努めた)は、明治18年に天皇が岡山県ぎょうこうへ行幸し、後樂園を訪れた際、郷土が永忠の恩恵で豊かに開発されていることを実感し、彼の顕彰を志しました。池田家から岡山県へ譲られ、広く市民に開放されていた後楽園内に、ゆかりのある永忠の顕彰碑を建てることになり、西毅一が書き出した文章を推敲の上、東京在住の旧藩主・池田章政いけだあきまさの了承を得て、章政の名前で碑に刻むことにしました(明治19年)。

しかしことは容易には進みませんでした。木畑は趣意書を起草して多くの人から寄附を募りました。明治28年には京都で開催される博覧会にあわせて建設が急がれ、香川県内で上質の石材を購入し、彫刻は倉敷の名工・藤田市太郎に委嘱、題字てんがく(篆額)は先代の旧藩主・池田茂政いけだもちまさ(最後の将軍・徳川慶喜の弟)に依頼し、撰文の揮毫(筆をふるって文字を書くこと)は曲折の末に著名な書家・日下部東作くさかべとうさくに委嘱しました。こうして顕彰碑(「津田永忠遺績之碑」)は明治29年に後楽園内の慈眼堂じげんどうの付近に建設されました。

なお、木畑の没後の明治43年に明治天皇が再び後樂園を訪れたとき、木畑から学んだ歴史家の山田貞芳やまださだよしの奔走で津田永忠の叙位(正四位)が行われ、評価が決定的になりました。

西欧から新しい思想や技術を学ぶのに熱心だった明治時代に、藩政期の地域の先人の業績を明らかにし、伝えようとしたのは西、木畑、山田のような歴史を深く知る人々でした。

### <木畑文庫目録のウェブ公開>

木畑家は、歴史学者の道夫以降、旧制岡山中学の英語教師を務めた次男の竹三郎氏たけさぶろう(内田百閒うちだひゃっけんの師として著名)、国文学者で就実短期大学長を務めた孫の貞清氏さだきよと、教育者や学者を輩出しました。昭和59年に木畑貞清氏から当館へ寄贈された木畑家の資料(「木畑文庫」843点)は、これまで紙のカード目録しかありませんでしたが、この機会に点検を加え、本展示の初日からPDFファイルの目録を当館ホームページへ掲載し、ウェブ公開することとしています。